

会 議 録 要 旨

会 議 名		平成29年度 第1回藤沢市下水道運営審議会	
開 催 日 時		2017年(平成29年)4月20日(木) 午前10時00分～午後0時00分	
開 催 場 所		藤沢商工会館ミナパーク502会議室	傍聴者数 0人
出席者	会 長	神田 務	
	委 員	井上 美鈴・小野島 真・菊田 稔・齋藤 力良・川田 兼子 木村 安代・永島 柳子・大岩 英一・須田 千亜希・布川 晃	
	事 務 局	鈴木下水道部長 下水道総務課：武井参事・齋藤主幹・近藤主幹・指旗補佐・佐藤補佐・林補佐・小川補佐 小野寺専任補佐・矢口・村田・金子・吉原・松本・野本・三澤 下水道管路課：張ヶ谷課長・坂口補佐・鈴木補佐・坪井補佐・山口 下水道施設課：竹村参事・真間主幹・一ノ瀬補佐・関野 浅井辻堂浄化センター長・加藤大清水浄化センター長	
議題及び公開・非公開の別		1 平成29年度藤沢市下水道事業予算の概要について 2 合流式下水道緊急改善事業アドバイザー会議について 3 その他 (1) 社会資本総合整備計画の事後評価について (2) 下水道PR事業について <div style="text-align: right;">(すべて公開)</div>	
非公開の理由			
審議等の概要		<p>《議題》</p> 1 平成29年度藤沢市下水道事業予算の概要について 平成29年度藤沢市下水道事業予算の概要について説明。 <p>【質疑】</p> ①災害対策についての予算は盛り込まれているのか。 《回答》平成25年度から藤沢市の総合地震対策計画を策定し対策を進めております。ポンプ場、処理場に関しては、緊急時の対応として必要な発電機や消毒剤等の備蓄、辻堂浄化センター管理棟の建替え、ポンプ場施設の耐震予算が含まれています。災害時に処理機能を最低限確保し、公共用水域に汚水等を流出させない対策を進めております。 管路に関しては、避難施設にあたる重要拠点の路線の耐震化を進める計画で、今年度は、市役所の建替えに伴い下流部分の耐震化を図る予定です。 また、災害が発生した場合に業務を継続する計画(BCP)を策定しており、定例的に訓練を継続して実施しております。 ②企業債のレートの幅は現時点でどの程度なのか。高利率の企業債はどのくらい残っているのか。 《回答》平成28年度の借り入れでは、利率は0.6%前後で借り入れしています。平成29年度予算は、財政課が示した利率1.6%で予算を組んでおります。利率が5%を超える高利率の企業債は、若干残ってはおりますが、徐々に償還満期を迎える状況です。 ③災害時のトイレはどのような対策をするのか。合併浄化槽やバイオトイレなど実験的に取り入れてはどうか。 《回答》市全体の施策としては、防災部局が被災時のトイレの整備をしています。下水道管理者としては、被災時にはできるだけ早期に下水道が使える状況にするため、業務継続計画(BCP)などで対応を図っています。 合併浄化槽の災害時対応につきましては、下水道法の解釈が示され災害時対応が可能となったこともあり、防災部局と連携し可能性を情報共有してまいります。 ④災害時の為に合併浄化槽を取り組む場合、二重投資となることから、今ある下水道施設を有効に使い、災害の問題と経営の問題をある程度仕切りながら考えていくべきでは。 《回答》現状の機能維持・改修を行い、より一層効率的に防災に活かすよう取り組んでおります。経営の視点から事業を圧迫することのないよう取り組んでまいります。 ⑤企業債の発行は37億、返済は48億となっており、返済の方が多く経営的には良いとおもいます。企業会計の場合、企業債は最終的にゼロにはなりませんので、企業債残高の最終的な目標値があれば教えてほしい。 《回答》平成27年度末の企業債残高は、約567億円です。企業債残高の最終目標値は立てておりませんが、湘南ふじさわ下水道ビジョンの計画期間(平成42年	

審議等の概要

度まで)で起債シミュレーションを行っております。借入額を35～40億で設定し、長期の見通しでは550億円程度の残高となる予測でございます。

⑥収益的収支の営業外費用で、雑支出が前年比2億6千万円減額となった理由は何か。
《回答》放射能関連費用の減額によるものです。賠償金が入金されるまで、一般会計から繰り入れをしております。当年度中に賠償金が入金された場合、一般会計へ返金するため雑支出として計上しています。

2 合流式下水道緊急改善事業アドバイザー会議について
合流式下水道緊急改善事業アドバイザー会議について説明。

【質疑】

⑦資料12ページ「家屋浸水被害の状況」に「過去20年間」とあるが、いつの20年を指しているのか。
《回答》最近の10年間を含んだ20年間です。

⑧⑦の回答から、過去20年間と最近の10年間を比較すると、浸水件数は減少しているが、浸水被害の要因を見ると、市街化の進展や集中豪雨により多く発生しているとあり矛盾していないか。
《回答》平成15年度と平成16年度は、非常に被害が多かった年であったため、藤沢市における既往最大の降雨とし浸水対策を進めており、この2年間が「最近の10年間」に含まれていないためこのような状況となっております。

⑨スクリーンの設置をし、動力を使わず越流せきで渦を利用し、きょう雑物を除去する仕組みはどのようなものか。
《回答》資料22ページ右図を参照。ガイドウォールという板と縦型制御盤を設置すると水理学的に渦を発生させ処理する仕組みです。

⑩ガイドウォールは、上下せず動かないものか。
《回答》はい。動きません。

⑪スクリーンを設置し、きょう雑物がたまった場合、上流への影響が心配されるがいかがか。また、海水浴場が近くにある重要水域は、消毒処理を考えなければいけないのでは。
《回答》スクリーンの目詰まり等により上流の管内水位の上昇につながり、浸水被害が発生する恐れがあることから、維持管理やメンテナンスについては気を配っております。合流式下水道を分流式下水道(雨水と汚水を分ける)並みの処理量に総量を抑えていく取り組みでございます。

⑫ポンプ場のドライ化とは、どのようなことか。
《回答》雨水を溜め込む池から、ポンプを使用し強制的に吸い上げて雨水処理をしています。降雨量が減るとポンプが機能しないため、池の中に雨水が残ったままとなります。次の雨が降るまで、池の中で雨水が腐敗してしまい、次の雨が降ると腐敗したものが排水されてしまうため、晴天時に池の中を可搬式のポンプを用いて空にすることをドライ化といいます。

【意見】ポンプ場のドライ化に関連して
雨水吐き室には汚泥だまりがあり、空にはできないため埋めることが必要かと思えます。

3 その他

(1) 社会資本総合整備計画の事後評価について
平成28年度第8回審議会の議題とし、ご意見を踏まえ3月27日付で国土交通省へ提出したことを説明。また、ホームページにも掲載し公表したことを説明。

(2) 下水道PR事業について
今年度の下水道PR事業の内容説明。
平成28年度神奈川県下水道公社主催の作品コンクール入賞作品集を配付。本市の入賞者を紹介。
PR事業のひとつとして作成した、下水道マスコットキャラクターのバッチを配付。